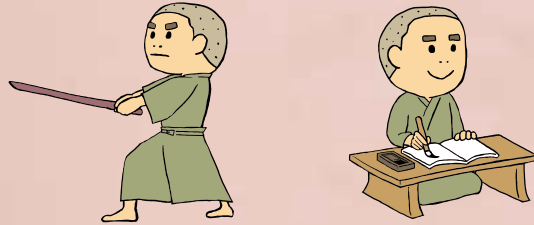


**世の中の役に立ちたい
穆佐の地から医学を志す**

幼名は藤四郎。8歳からこの地方の学者・中村敬助のもとで四書五経を学び、10歳になると漢学塾に通いながら、地元の年寄から示現流の剣術を習い始めます。そして13歳のときに地元の有識者で医師の黒木了輔の影響を受け、医学を志します。その後、師匠の黒木などの後押しを得て18歳で鹿児島島の蘭学医・石神良策に付いて医学の勉強を始めました。



ウィリアム・ウィリス



**戊辰戦争に軍医として従軍
西洋医学の必要性を痛感**

明治元年に戊辰戦争が勃発すると、会津若松の戦地で負傷者の診療に従事。しかし、外科の技術をほとんど知らず、負傷者が出て手術は失敗の連続でした。ここで兼寛に大きな影響を与えたのが、負傷者に外科手術を施す西洋医学と、イギリス人医師のウィリアム・ウィリスでした。ウィリス医師の治療で多くの命が救われるのを目にして、西洋医学を学びたいと強く願うようになりました。

**27歳でイギリス留学
抜群の成績で医学校を卒業**

戊辰戦争から戻ると、ウィリスを校長に迎えた鹿児島医学学校に入学。英語の素養もあったため、ウィリスの助手なども務め、2年学んだのちに上京し海軍へ。さらにその3年後、念願のイギリス「セント・トーマス病院医学校」に留学。5年間の在学中に、優秀賞や榮譽賞などを受賞します。この学校には、ナイチンゲールが設立した看護学校も併設され、兼寛の病院づくりに影響を与えました。



成医会講習所第1期生。前列中央が兼寛



略年譜 ※年齢は数え年、紫字は社会の出来事	
嘉永2年(1849) [1歳]	9月15日(旧暦)、穆佐郷士・高木喜助の長男として日向国東諸県郡穆佐村白土坂(現在の宮崎市高岡町穆佐)に生まれる。
安政元年(1854)	ペリー再来航、日米和親条約締結
安政3年(1856) [8歳]	中村敬助に付いて四書五経を学ぶ。
安政5年(1858) [10歳]	阿万孫兵衛に示現流の剣術を習う。
安政5年(1858)～	安政の大獄
文久元年(1861) [13歳]	医学を志す。
慶応2年(1866) [18歳]	鹿児島に行き、石神良策に付いて医学を学ぶ。
明治元年-明治2年(1868-1869)	明治維新～戊辰戦争
明治元年(1868) [20歳]	薩摩藩九番隊付き医師として、東北征討軍に従軍。
明治3年(1870) [22歳]	鹿児島医学校(薩摩藩立開成学校)で、英医ウィリアム・ウィリスに付いて医学と英語を学ぶ。
明治5年(1872) [24歳]	4月15日、海軍省九等出仕。6月、富子と結婚。
明治8年(1875) [27歳]	イギリス留学を命ぜられ、ロンドンのセント・トーマス病院医学校に留学。
明治10年(1877)	西南戦争
明治13年(1880) [32歳]	11月、留学を終えて帰国。12月、海軍中医学監、東京海軍病院院長を命ぜられる。
明治14年(1881) [33歳]	5月、成医会講習所(東京慈恵会医科大学の前身)を設立。初代所長となる。

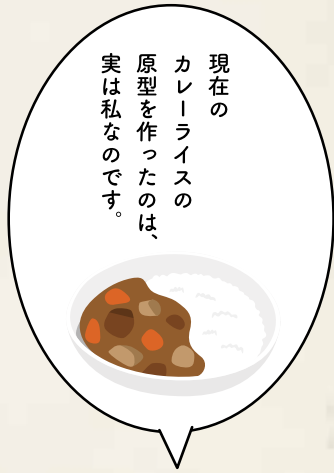
生誕170年
特集1

TAKAKI KANEHIRO

郷土の偉人・高木兼寛

「ビタミンの父」は スーパーマルチ男爵!

今から170年前、高岡町穆佐に生まれた高木兼寛。医師や看護師の心構えを説いた「病気を診ずして病人を診よ」の言葉でも知られています。イギリス留学後に東京海軍病院長となった兼寛は、当時難病といわれていた「かっけ」の予防法確立に取り組むなど、日本の医学界に大きく貢献し男爵位も授けられました。今年、生誕170年を迎える郷土の偉人・高木兼寛の生涯と、その功績を学ぶ取り組みを紹介します。



現在の
カレーライスの
原型を作ったのは、
実は私なのです。

かっけの原因を究明し
その予防法に多大な貢献

高木兼寛が日本海軍の軍医大監を務めていたとき、かっけは栄養不足によって引き起こされると考え、軍艦乗組員の食事を改善する実験を行いました。その改善食の一つが、イギリス海軍が糧食にしていたカレー風味のシチューをヒントに、炒めた小麦粉でとろみをつけて麦飯にかけたもので、現在、一般的に食べられている「カレーライス」のルーツといわれています。兼寛の研究は、のちのビタミンの発見につながり、かっけはビタミンB1の欠乏で発症することが証明されます。このことから、高木兼寛は「ビタミンの父」と呼ばれるようになったのです。

高木兼寛ゆかりの名所・旧跡

穆園広場(高岡町)

兼寛の生誕地にある公園。穆佐城跡の西側に位置する城郭跡を利用して造られています。



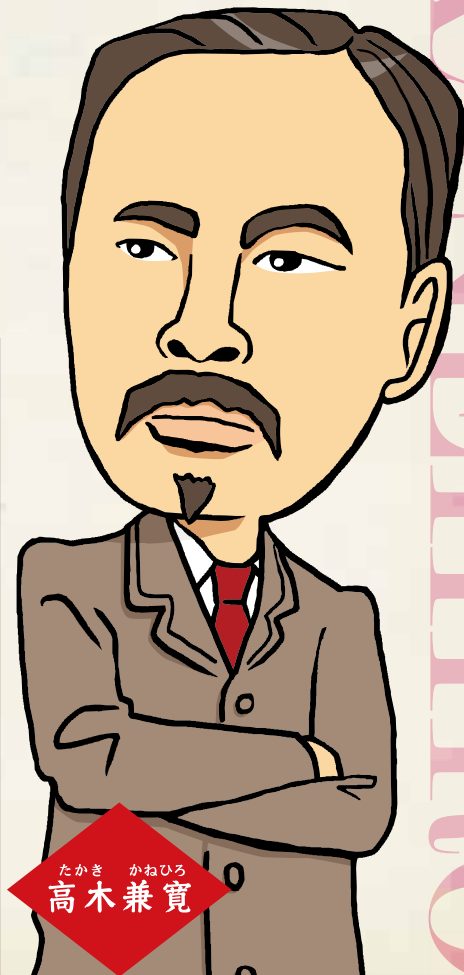
高木家墓所(高岡町)

高木家の墓所が町内の共同墓地にあります。墓石側面に、兼寛が東京に移り住んだと書かれています。



宮崎市天ヶ城歴史民俗資料館(高岡町)

天ヶ城跡に建つ、天守風建築の資料館。年に数回、不定期ですが、兼寛にまつわる資料の展示が行われます。



たかき かねひろ
高木兼寛

TAKAKI KANEHIRO